

4月の銅マーケットレポート及び5月の見通し(3)

橋本アルミ(株) 橋本健一郎



【伸銅品生産】

伸銅品生産は、前年比-5.9%の7万2645 t、2カ月連続減少。内需、5万9705 t、-1.4%、6カ月ぶりマイナス。輸出、1万2940 t、-2.9%、3カ月連続マイナス。銅条、2万3728 t、-1.5%、23カ月ぶりマイナス。黄銅棒1万6516 t、-3.6%、2カ月連続マイナス。

【電線】

前年比+0.8%の5万9100 t。うち国内-5.3%、輸出が-19.6%。通信-32.7%、電力-8.3%、電気機械-1.4%、自動車+6.4%、建設電販-6.2%、その他内需-17.4%。

【輸出】

電気銅輸出が+12.7%の5万6051 t。銅スクラップは-46.1%の1万5558 t。

【輸入】

電気銅が-40%の901 t。スクラップは-15.3%の9098 t。

【見通し】

- ・自動車は生産が+0.2%。
国内販売台数が前年比+0.5%。小幅ながら生産が3カ月ぶりプラス、販売が6カ月ぶりプラス。微増から増加に転ずるかどうかが今後注目。
- ・宅着工の動向については、前年同月比で-8.3%と9か月連続マイナス。下げ幅が拡大し、下落傾向が続くのかどうかが今後の動向に注目。
- ・伸銅品は、2カ月連続減少、前年比-5.9%。
需要の多い銅条が23カ月ぶり、黄銅棒は2カ月連続のマイナス、輸出は3カ月連続マイナス。
住宅の減少、自動車の伸び悩みが続く中、伸銅品生産も減少しており今後の動向に注視。
- ・電線、前年比+0.8%の5万9100 t。
輸出が-19.6%。需要の多い自動車、建設電販がそれぞれ+6.4%、-6.2%。建設電販が2カ月連続マイナスに！
- ・銅輸出は、大幅な円安を受けて地金は増加。中国の輸入規制からスクラップは大幅減。

・銅輸入は、大幅円安から地金、スクラップ共に減少。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は、GW前建値が80万円台にのったことや休み前のリスク売りが済んでおりほとんどないのではないかと。需要面に関しては前月に足元の生産状況は足踏み状態にある。

また、メーカーが引き続き人手不足問題から地金を優先に使用していることから品費の低いスクラップに関しては購買意欲は薄く均衡状態になるのではないかと。

【価格・為替予想】

今月は米のイラン核合意離脱その後の動向や米朝会談及び北の核廃棄問題に左右される。米のイランの核合意離脱に関しては、実際の経済制裁再開まで90-180日かかることから間もなく行われる米朝会談へのパフォーマンスの可能性もあり、北の核廃棄がある程度約束されれば、合意に戻る可能性もある。

米朝会談に関しては、簡単に核廃棄とは行かないものの北朝鮮側は追い詰められてる状況でもあり、金権運営が担保されるなら廃棄する可能性もあり。

それらを踏まえた5月の銅価格は、合意離脱で米が早急な経済制裁を行わず、米朝会談が問題なく行われた場合、先月高値の7000ドルを予測。いずれかの場合は6900ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかった場合先月安値の6700ドル。

為替は、上記材料から、ドル円値は106円~110円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては750-810円程度と予測している。

【「4月の銅マーケットレポート及び5月の見通し」終了】

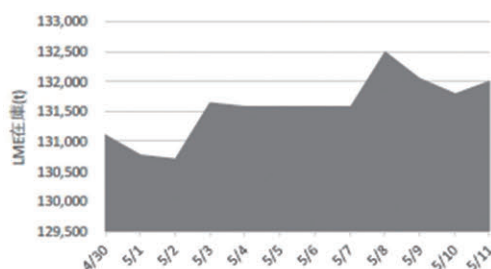
バックナンバーは下記のサイトで閲覧できます。

dailiesmetal.com



LME認定倉庫在庫量推移 4月30日~5月11日(現地)

鉛



亜鉛

